

2025年5月 マーケット概況

資産クラス	指数	2月	3月	4月	5月	当月リターン	年初来リターン
国内株式	日経平均株価	37155.50	35617.56	36045.38	37965.10	5.33%	-4.84%
	グロース250	653.77	651.41	676.85	745.24	10.10%	15.69%
海外株式	NYダウ平均	43840.91	42001.76	40669.36	42270.07	3.94%	-0.64%
	S&P500	5954.50	5611.85	5569.06	5911.69	6.15%	0.51%
	NASDAQ総合	18847.28	17299.29	17446.34	19113.76	9.56%	-1.02%
	MSCI EUROPE	2215.04	2200.34	2284.16	2370.53	3.78%	18.35%
新興国株式	上海総合指数	3320.897	3335.746	3279.031	3347.490	2.09%	-0.13%
	SENSEX	73198.10	77414.92	80242.24	81451.01	1.51%	4.24%
海外金利	米政策金利 (FF金利)	4.50	4.50	4.50	4.50	-	-
	米国債10年	4.2290	4.2450	4.1750	4.4180	-	-
国内金利	政策金利 (無担保コール)	0.477	0.476	0.476	0.476	-	-
	10年物国債	1.3740	1.4890	1.3130	1.5090	-	-
外国為替 (対円)	米ドル	150.60	149.95	143.07	144.04	0.68%	-8.36%
	ユーロ	156.25	162.20	162.06	163.44	0.85%	0.44%
コモディティ	WTI (原油先物)	69.76	71.48	58.21	60.79	4.43%	-15.24%
	NY金 (先物)	2848.5	3105.3	3319.1	3315.4	-0.11%	25.54%
不動産	東証REIT	1700.49	1691.63	1712.43	1736.74	1.42%	5.07%
ヘッジファンド	HFRX指数	1503.66	1492.38	1485.99	1503.43	1.17%	1.27%

データ出所 : Refinitiv

【 5月の金融市場 】

5月の日本株式市場は、前月からの反騰相場が継続し月前半までは堅調な動きとなりました。米中間の相互関税の引き下げや交渉延長を好感して予想以上の戻り相場となりました。ただ、月後半は、高値警戒や米国経済の不透明感で上値の重い展開となりました。日経平均は前月比+5.3%と2カ月連続上昇して取引を終えました。TOPIXは+5.0%となり、NT倍率は小幅ながら前月に続き上昇しました。東証グロース250指数は+10.1%と主力株を大幅に上回るパフォーマンスになりました。主力銘柄の上値が重い中で、グローバル経済の影響を受けにくい企業が多く、値幅取りを狙う短期資金の受け皿になったことが要因でしょう。

米国株式市場は、関税政策で中国との交渉が進展するとの観測やテック銘柄の好決算でハイテク株を中心に堅調な相場が続きました。NYダウの月間騰落率は+3.9%で2カ月連続高となりました。ナスダックはテック銘柄の好決算から+10.1%と大幅高を記録、NYダウを大きくアウトパフォームしています。

米国10年債金利は、月初の4.2%から一時4.6%水準まで上昇しました。米中貿易協議で楽観ムードが広がったことや財政赤字に対する懸念が拡大したことが背景です。

ドル円相場は、月前半に米国長期金利が上昇したことからドル高円安の動きとなり、一時148円台をつけました。ただ、月後半は関税政策や税制・歳出法案の不透明感から再び円高となり142円台まで押し返されています。

大阪金先物は、月初に、関税政策の不透明感と地政学リスクの高まりにより急騰する局面がありました。中心限月‘26年4月限が3営業日で15000円水準から15800円台まで800円幅以上大幅上昇を記録しました。月半ばにかけては一転1000円幅以上の急反落となり大きな変動となりましたが、その後は持ち直して月後半は比較的小幅レンジで推移しました。

【 今後の見通し 】

日本株は5月中旬までの反騰相場の後、足元では日経平均で37000円台を中心に方向感の乏しい動きになっています。目まぐるしく変わるトランプ大統領の発言に市場が慣れてきたことや、株価を意識する姿勢への安心感が株価下支えの背景になっています。一方、テクニカル的には、4月初めに一時20%を上回る下方乖離した200日移動平均（6/5現在37860円）を一気にキャッチアップしたため、現在はこの水準を中心にして日柄調整の時間帯にあると考えます。5月中に急落前の水準に一気に戻ったため上値が限定的になるのもやむを得ない状況です

5月米国ISM景気指数は製造業・非製造業ともに予測を下回り、好不況の分かれ目である50を割り込みました。関税政策を巡るトランプ発言やヘッドラインに一巡感がある中で、市場の関心はファンダメンタルズ動向に軸足が移りつつあります。一部景気指標に減速傾向が見られ注意が必要ですが、本格的な景気後退に陥る可能性は現在のところはさほど大きくないとみています。トランプ政権が始まって以降、相互関税導入などマーケットや消費者心理にはネガティブな話題が中心でした。そうした状況で株価が一時急落したものの、その後予想以上の急反発となりました。市場には悪材料に対する耐性が相当出来ていると考えます。また、金融政策を含め景気対策のカードが多く残されていることは、市場の安定に好影響を与えます。現在のところFOMCで秋口以降年内2~3回の利下げがコンセンサスになっています。

5月の戻り相場は買い主役は外国人の現物買いと事業法人の自社株買いでした。過去数年の米国株一辺倒だったグローバル資金の流れは変調がみられます。日本株は夏頃までは比較的小幅レンジのボックス相場がメインシナリオですが、年後半は再び上値をうかがう動きを想定しています。内需・バリュー株を中心に株主還元に積極的な企業や成長戦略が明確な企業の押し目買いが有効な投資戦略と考えます。6-7月の日経平均予想レンジは36500~39000円です。

【 5月のヘッジファンド 】

米調査会社、ヘッジファンドリサーチ社が算出する5月のヘッジファンド・インデックスは+1.17%と反発しました。

5月の株式市場は、米中間の関税引き下げを好感して上昇しました。特に中国と取引があるハイテク・半導体関連銘柄が多いNASDAQ総合指数は、前月比9.65%とその影響を大きく受けました。債券市場は安全資産の需要の後退と、米国の財政赤字を懸念して米10年国債の利回りは大きく上昇しました。

この様な中、ヘッジファンドは、株式ロング・ショート、イベント・ドリブン、レラティブ・バリュウの戦略がプラスとなりました。

【株式ロング・ショート】(+2.63%) ※ () は前月比

4月に60ポイント台まで上昇していたVIX指数（恐怖指数）が10ポイント台まで急低下し市場は落ち着きを取り戻しました。個別銘柄に対しても想定外の動きが減少し、ヘッジファンドの分析の効果が出て好成績に繋がりました。

【イベント・ドリブン】(+1.09%)

世界的にM&Aの件数が減少する中で、日本においては、子会社に対するTOBや、コーポレートガバナンス改革の流れを受けたMBOが増加する傾向にあります。NTTドコモが住信SBIネット銀行に対するTOBは2,300億円、塩野義がJTの医療事業に対するTOBは1,600億円と大型案件の発表が続きヘッジファンドは収益機会を得ました。

【レラティブ・バリュウ】(+0.61%)

4月末に4.1%台まで低下していた米国債の利回りは5月半ばにかけて4.6%台まで大きく上昇しました。債券市場においても米政権の関税政策が大きな動揺につながっています。しかしその不安定な状況が裁定機会を生み、成績の押し上げに繋がりました。

【マクロ】(-0.44%)

米国金利の変動を受けて、為替市場も動きが生まれました。5月前半に102ポイントまで上昇したドル・インデックスは月末にかけて大きく低下。月末には99ポイント台で終わり、ドルを買っていたヘッジファンドは影響を受けました。また、中東などの地政学リスクの高まりもマクロ戦略の舵取りを難しくしています。

【CTA】(-1.39%)

主な対象となる金は地政学リスクが高まる中で高値持ち合いが続き、大きな変動がありませんでした。また、WTI原油先物市場においても60ドルを中心とした狭いレンジの動きで、ヘッジファンドにとっては収益機会に恵まれませんでした。株価指数先物のシステム売買もボラティリティの低下で苦戦を強いられました。

ヘッジファンドインデックスと主な戦略別の運用成績（月別騰落率）

	2024年	2025年					年初来
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	
ヘッジファンド・インデックス	0.01%	1.00%	0.28%	-0.75%	-0.43%	1.17%	1.27%
株式ロング・ショート	-0.36%	2.11%	-0.53%	-1.33%	0.00%	2.63%	2.85%
イベント・ドリブン	0.48%	0.66%	0.46%	-0.12%	0.00%	1.09%	2.10%
レラティブ・バリュー	-0.25%	0.87%	0.75%	-0.45%	0.18%	0.61%	1.96%
マクロ	0.30%	-0.20%	0.70%	-1.33%	-3.01%	-0.44%	-4.25%
C T A	1.55%	-0.27%	-0.50%	-1.17%	-4.49%	-1.39%	-7.64%

データ出所：ヘッジファンド・リサーチ社

6月高配当銘柄

足元の株式相場は、米トランプ大統領による相互関税が発動されたものの、一部引き下げや廃止等を好感し戻り歩調となっています。特にドイツ市場は堅調で、欧州中央銀行（ECB）の利下げが追い風となり史上最高値を更新しています。

一方、日本の方は業績の新年度予想が非開示であったり保守的であったりした事から上値が重く、日経平均は37,000円～38,000円のレンジ相場が続いています。

そんな中、今月6月末（権利付き＝26日）は3月・9月に次ぎ多くの会社が決算を迎える事から、配当取りが注目されます。先の決算発表で、想定以上に保守的な見通しから売られ、割安なまま放置されている銘柄もあるかもしれません。

それ故、権利落ち後でも配当や優待相当額よりも株価が下落しない事や、戻りが早い事が期待されます。株式投資において、最大の醍醐味は安く買って高く売る（高く売って安く買う）キャピタルゲインである事は事実ではありますが、インカムゲインによる安定的で継続的な運用もまた魅力的であると思います。

これを機に、ご自身のポートフォリオを見直されても良いのではないのでしょうか。

注目の高配当銘柄

コード	銘柄名	株価(円)	配当利回り(%)
6481	THK	3907	6.29
8963	インヴィンシブル投資法人	60900	6.22
8985	ジャパン・ホテル・リート投資法人	74400	5.99
5201	AGC	4250	4.94
1605	INPEX	1951	4.61
7272	ヤマハ発動機	1091	4.58
4324	電通グループ	3130	4.45
2914	JT	4411	4.39
8955	日本プライムリアルティ投資法人	362500	4.38
1911	住友林業	4285	4.25
5214	日本電気硝子	3444	4.21
6302	住友重機械工業	2971.5	4.2
5105	TOYOTIRE	3033	4.12
5110	住友ゴム工業	1735	4.03
3003	ヒューリック	1465.5	3.88
5108	ブリヂストン	5965	3.85
4927	ポーラ・オルビス HD	1365.5	3.8
8804	東京建物	2579	3.76
9147	NXHD	2687.5	3.72
7751	キヤノン	4332	3.69

※配当利回りは2025年6月2日終値現在の QUICK におけるデータベースに基づく。

なお、時価総額が3,000億円以上の銘柄を選出。

日経平均



NYダウ



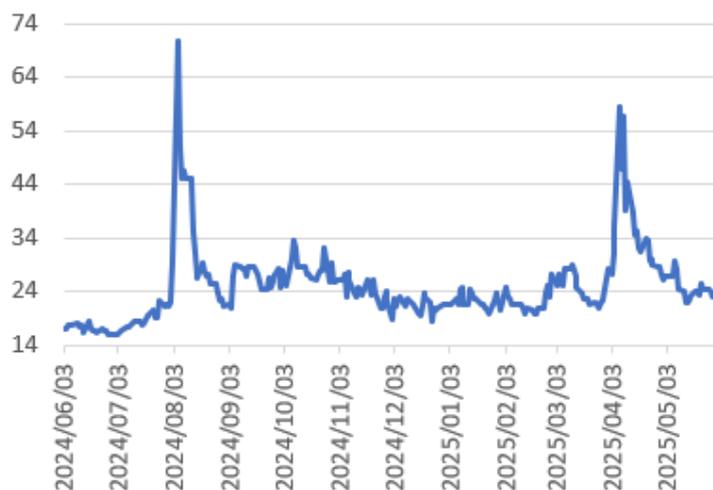
米国10年債利回り 日本10年債利回り



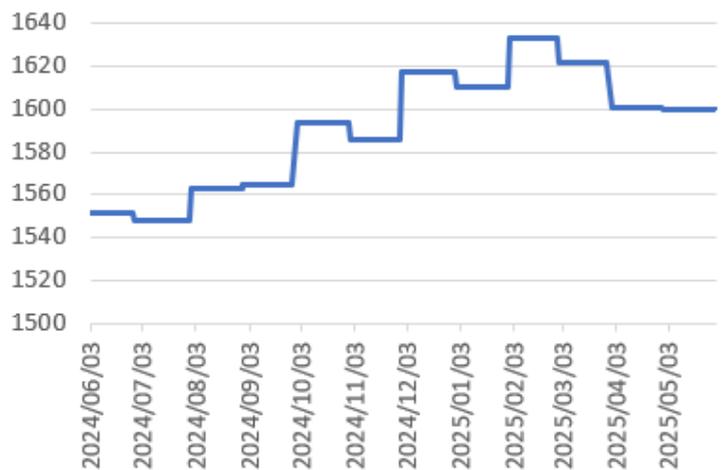
ドル円 ユーロ円



日経VI指数



Bloomberg全ヘッジファンド指数



<執筆者>

株式・債券・為替

… 西川 雅博

オルタナティブ(ヘッジファンド)

… 樋爪 功次

そうだったのか! 「知って納得、証券投資」 Vol. 191
6月高配当銘柄

… 金井 良記

<編集責任者>

樋爪 功次

本資料は、情報提供のみを目的として作成したもので、いかなる有価証券等の売買の勧誘を目的としたものではありません。また、一般的あるいは特定の投資助言を行うものでもありません。本資料は、信頼できると判断した情報源から入手した情報・データ等をもとに作成しておりますが、これらの情報・データ等また本資料の内容の正確性、適時性、完全性等を保証するものではありません。情報が不完全な場合または要約されている場合もあります。本資料に掲載されたデータ・統計等のうち作成者・出所が明記されていないものは、当社により作成されたものです。本資料に掲載された見解や予測は、本資料作成時のものであり予告なしに変更されます。過去の実績は将来の成果を予測あるいは保証するものではありません。
本資料の表・グラフのデータ出所：REFINITIV、Bloomberg 他

K 光世証券

金融商品取引業者 近畿財務局長（金商）第14号 加入協会：日本証券業協会

本店 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-1-10 TEL：06-6209-0821

東京店 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町9-9 TEL：03-3667-7721

